

使用前には必ず本使用説明書を読み、注意事項を守って使用してください。

## 動物用医薬品

# 劇 マイコバスターARプラス®

豚マイコプラズマ肺炎・豚ボルデテラ感染症・豚バツレラ症混合不活化ワクチン

### 製法及び性状

本剤はボルデテラ・ブロンキセプチカS1株、毒素産生バツレラ・ムルトシダZF-899-1株及びマイコプラズマ・ハイオニューモニエ1986-1-1株をそれぞれの製造用培地で培養して得た菌液から菌体破碎上清、粗精製皮膚壊死毒素及び濃縮粗ろ液を作製し、ホルマリンで不活化した後、アジュバントとして水酸化アルミニウムゲルを添加した3種混合ワクチンです。

静置すると沈殿を認めますが、振盪すれば均一で帯黄灰白色の不透明な液体となります。pHは6.7～7.3です。

### 成分及び分量

ワクチン	1 mL中
主 剤	ボルデテラ・ブロンキセプチカS1株破碎上清 (不活化前皮膚壊死毒素活性) …… 8.0×10 <sup>3</sup> EBL単位以上 ～8.0×10 <sup>4</sup> EBL単位未満 毒素産生バツレラ・ムルトシダZF-899-1株トキソイド (不活化前皮膚壊死毒素活性) …… 1.0×10 <sup>6</sup> EBL単位以上 ～1.0×10 <sup>7</sup> EBL単位未満 マイコプラズマ・ハイオニューモニエ1986-1-1株培養濃縮粗ろ液(ろ過後生菌数) …… 2.5×10 <sup>5</sup> CCU以上～ 2.5×10 <sup>7</sup> CCU未満
アジュバント	水酸化アルミニウムゲル(アルミニウム含有量) …………… 1.30～1.70mg
不活化剤	ホルマリン …………… 0.25vol%以下

### 効能又は効果

豚の萎縮性鼻炎の予防及び豚マイコプラズマ肺炎による肺病変形成抑制及び増体量・飼料効率低下の軽減

### 用法及び用量

生後1週齢から4週齢の子豚に1頭当たり1 mL、さらに2週間後から4週間後に1 mLを筋肉内に注射する。

### 使用上の注意

#### 【一般的注意】

- (1) 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

#### 【使用者に対する注意】

- (1) 誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば本使用説明書を持参し、受傷について医師の診察を受けること。

#### 本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗 原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
ボルデテラ・ブロンキセプチカ	否	死菌(破碎上清)		
バツレラ・ムルトシダ	否	死菌(粗精製トキソイド)	有	水酸化アルミニウムゲル
マイコプラズマ・ハイオニューモニエ	否	死菌		

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社科学飼料研究所 動薬部  
〒370-1202  
群馬県高崎市宮原町3-3  
TEL 027-347-3223  
FAX 027-347-4577

- (2) 事故防止のため、作業時には防護メガネ、マスク、手袋等を着用すること。
- (3) 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

### 【豚に対する注意】

#### 1 制限事項

- (1) 本剤の投与前には健康状態について検査し、重大な異常(重篤な疾病)を認めた場合又は次の場合には投与しないこと。
  - ・過去にアレルギー反応又はアナフィラキシー反応が認められたもの。
- (2) 対象豚が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
  - ・発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
  - ・疾病の治療を継続中のもの又は治療後間がないもの。
  - ・明らかな栄養障害があるもの。
- (3) 本剤の投与後、激しい運動は避けること。

#### 2 副反応

- (1) 本剤投与後、投与部位に腫脹、硬結等が認められる場合がある。
- (2) 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- (3) 注射後一過性の軽度な発熱、元氣消失又は食欲不振がみられることがあるが、数日以内に回復する。症状が重度のときは適切な処置(解熱剤の投与など)を行うこと。
- (4) まれにアレルギー反応又はアナフィラキシー反応[ショック(虚脱、貧血、血圧低下、呼吸速迫、呼吸困難、体温低下、流涎、ふるえ、けいれん等)]が起こることも考えられるので、注射後しばらくは観察を続けること。  
もし、ショック症状が認められたときは、直ちに適切な処置を行うこと。

#### 3 相互作用

本剤には他の薬剤(ワクチン)を加えて使用しないこと。

#### 4 適用上の注意

- (1) 注射部位を厳守すること。
- (2) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により

消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く。)

なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。

- (3) 注射器具(注射針)は(原則として)1頭ごとに取り替えること。
- (4) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (5) ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。

#### 【取扱い上の注意】

- (1) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (2) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (3) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) 使用時よく振り混ぜて均一とすること。
- (5) 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
- (6) 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (7) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

#### 【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

#### 貯 法

2～10℃


#### 有効期間

3年間(最終有効年月は外箱及びラベルに表示)

#### 包 装

1 バイアル 50mL(50頭分)

販売元  Meiji Seika ファルマ株式会社  
東京都中央区京橋2-4-16

製造販売元  株式会社 科学飼料研究所  
東京都中央区築地一丁目12番6号